

## 農業委員会制度が変わりました

農業委員会等に関する法律が改正され、平成28年4月1日に施行されました。主な内容は次のとおりです。

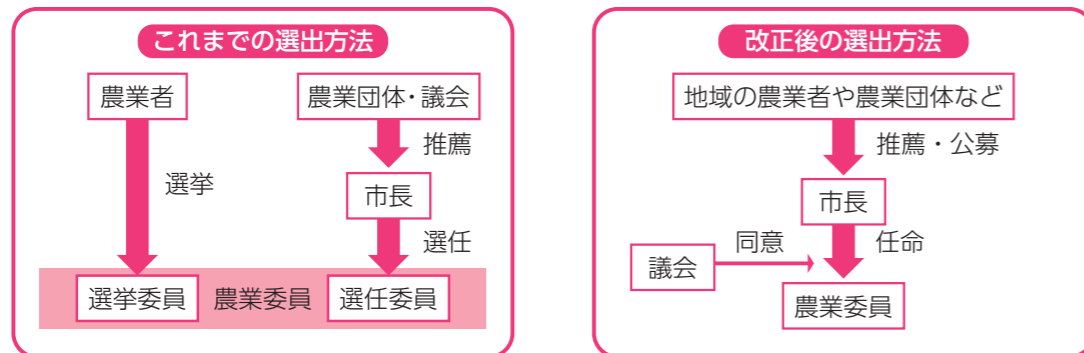
### 農業委員会の「農地等の利用の最適化の推進」に関する役割が強化されます

従来の権利移動などに関する許可業務に加え、農業委員会の業務の重点として、農地利用の最適化(担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進)の推進が必須業務となります。

### 農業委員の選出方法が公選制から市長による任命制へ変わります

農業委員の選出方法が、公選制から市議会の同意を要件とする市長の任命制へと変更となります。市長は任命する際、あらかじめ地域の農業者や農業団体などから候補者の推薦を求めます。また、広く一般からも公募を行います。なお、農業委員の定数は13人となります。具体的には、次に掲げる内容に従って任命することになります。

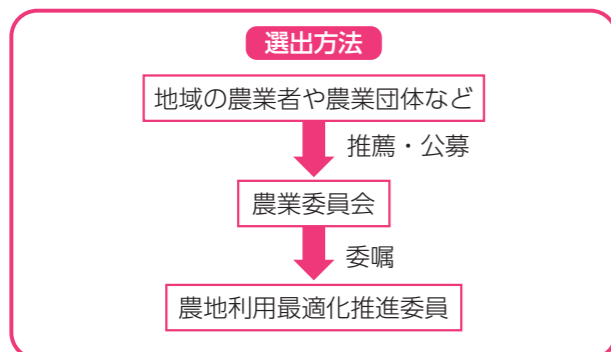
- ・農業委員の定数のうち過半数は、認定農業者とします。
- ・農業者以外の方で、中立な立場で公正な判断をすることができる者を1人以上含めます。
- ・農業委員の年齢、性別などに著しい偏りが生じないように配慮します。



※行田市では、経過措置により新たな選出方法による農業委員は平成29年7月20日以降となります。

### 農地利用最適化推進委員が新設されます

農業委員会は、農地利用の最適化の推進に取り組む体制を強化するため、農地利用最適化推進委員を委嘱することになります。農業委員会は、委嘱する際、農業委員会が定めた区域ごとに、あらかじめ地域の農業者や農業団体などから候補者の推薦を求めます。また、広く一般からも公募を行います。農地利用最適化推進委員は、農業委員会が定めた区域内の農地などの利用の最適化のための活動を農業委員と連携して行います。なお、農地利用最適化推進委員の定数は20人となります。



※行田市では、農地利用最適化推進委員は、平成29年7月20日以降に農業委員会から委嘱されます。

▶問い合わせ 農業委員会事務局(内線391)

## 池井戸潤氏の小説『陸王』 TBSテレビ 日曜劇場でドラマ化決定!

昨年7月に発売になった池井戸潤氏の小説『陸王』(集英社)。このほど、TBSテレビ日曜劇場においてドラマ化されることが発表されました。放送予定は10月より毎週日曜日の午後9時から。

主人公の宮沢紘一を演じるのは、役所広司さんに決定しているそうです。行田市を舞台としたドラマであり、市内でのロケーションも期待されます。行田市としてもドラマ「陸王」を応援してまいります。

▶問い合わせ 商工観光課観光担当(内線382・389)

### 役所広司さんのコメント

原作の中で“私は『陸王』というシューズを企画して、試行錯誤しながらここまで来た。その過程で色んなことを学ばせてもらったけど、中でも特に、教えられたのは人の結びつきだ”と言った宮沢社長は、決して経営者として才能ある人物ではないけれど、彼には、人を惹きつける不思議な魅力があります。

その魅力を試行錯誤しながら、見つけていこうと思います。

たくさんのユニークで魅力的な登場人物たちとドラマの中で会える日を楽しみにしています。

(TBSホームページより)

## 市指定文化財に「今津印刷所店蔵・主屋・土蔵」・「旧忍町信用組合店舗」が指定されました

平成28年12月22日、今津印刷所店蔵・主屋・土蔵(3棟・行田12-22)と旧忍町信用組合店舗(行田13-31)が、行田市指定文化財(建造物)に指定されました。この指定により市指定文化財は65件となりました。

今津印刷所店蔵・主屋・土蔵は、主要地方道行田蓮田線に西面する土蔵造り2階建ての店蔵と、それに続く平屋の主屋、その後ろに建つ2階建ての土蔵の3棟です。店蔵と主屋は、江戸時代後期の建築と推測される現存する市内最古の店蔵で、田山花袋の小説『田舎教師』に登場する“行田印刷所”のモデルにもなっています。明治時代の建設と推測される土蔵も含めて、本市の歴史的景観に欠くことのできない貴重な建造物であるといえます。

旧忍町信用組合店舗は、木造2階建ての下見板コロニアル様式の洋館です。この洋館は、現在の埼玉縣信用金庫の前身である忍町信用組合店舗として大正11年(1922)8月6日に開店した元銀行店舗で、その建設・運営には名誉市民の村上義之助氏が深く関わっていました。現存する市内では数少ない大正時代の洋館であり、足袋産業を支える重要な役割を果たした地元金融機関の店舗としても歴史的に重要な建造物であるといえます。

▶問い合わせ 文化財保護課文化財保護担当☎553-3581



今津印刷所店蔵・主屋・土蔵



旧忍町信用組合店舗